



## 新しい出会いを求めて ESDうべ推進協議会副会長 赤田 博夫

今年度から山口県ひとつくり財団県民学習部生涯学習推進センターでお世話になっている。20年前に山口県の社会教育、生涯学習の拠点として発足して以来、県民の皆さんに生涯学習や環境学習をとおして創造性に富んだ人づくり地域づくりのノウハウを届けてきている。

今年度発足した新規事業である、山口県企画課、山口大学、東京に本部を置く「カタリバ」と提携した「やまぐち高校生マイプロジェクト」にパートナーとして参画させてもらっている。このことから考え方もリニューアルできて、若い皆さんと一緒に活動する喜びを味わおうとしている。しかし現在、コロナウイルスによってすべての事業が中止もしくは延期に追い込まれている。

この「やまぐち高校生マイプロジェクト」だが、高校生が自分の身近にある課題を主体的に発見し、課題解決に向けた実践を通して、解決に向けてプロセスを描く力や失敗を恐れずに挑戦し続ける力、立場や意見の違いを超えて互いによりよい解決策を求めて話し合うコミュニケーション能力等を育成する事業である。現在、関係者とテレビ会議等を通して意思の疎通を図り、より良い事業となるよう努めている。

さらに財団が置かれているセミナーパークだが、12月以降リニューアルされることで15年間続いている「ひとつくり、地域づくりフォーラム(全国大会)」が中断されることになった。そこで今年度を充電期間と捉え、令和3年に再開される大会に備えて、これまでの良さを引継ぎながらも新たな視点で魅力ある内容にしていくため準備委員会が立ち上げられ、委員として名前を連ねることになった。1年間かけてこれまで以上に魅力ある大会となるようにしていきたいと思っている。



若手リーダー育成セミナー



やまぐちしょういん学校研修風景



ひとつくり・地域づくりフォーラム

## 今年度の行事等予定について

指定管理者うべ環境コミュニティー 理事長 浮田 正夫

今年に入ってから世界的な新型コロナウイルスの蔓延と3月4日～5月20日まで78日間の臨時休館があり、現在も定員半減以下のサービスにとどまっております。国全体としても、必ずしも科学的根拠十分とは言えない状況で、緊急事態宣言は解除されたものの引き続き、自粛の体制を維持することが求められています。そのため今年度のスケジュールについては一応設定はするが、実際実行可能なのかに不安が残る状況になっています。まちなか環境学習館の重要な役割である環境啓発、環境情報発信、環境保全活動、ESD※の推進等については、基本的には前年度を踏襲した内容になりますが、例年より検討が遅れていることは否定できません。以下、各6回程度の環境サロンとESD研修会の開催のほか、関連する主要なものを挙げると以下ようになります。

- ① 藤山中学校と連携した、中川ヒヌマイトトンボ生息代替地周辺の自然体験学習およびごみ回収 (ESD推進協議会、ひとつくり財団助成)
- ② 地元環境衛生連合会支部と連携した中川河口域及び床波黒崎海岸清掃他 (UKC※※、山口県環境保全事業団助成)
- ③ 宇部工業高校と連携してオリーブ園の管理を通してESD教育 (ESD推進協議会、同上)
- ④ 学習室利用者等を対象とした哲学カフェ・読書感想会・エコ市場での展示等のESDプログラム (UKC、市民活動課へ申請予定)
- ⑤ その他 校区での取り組み 未定

人数制限などもあり得るので、Youtube配信やZoomの利用等も考えていく必要があると考えています。なお、まちなかおそうじ隊は5月分より復活、まちなかエコ市場は11月14日に開催を予定しています。

※ESD：持続可能な開発のための教育 ※※UKC：NPO法人うべ環境コミュニティー

## まちなかおそうじ隊

7月26日(日) 15:00～  
学習館前に集合(道具は不要)

学習館では、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードを掃除しています。

どなたでもご参加  
いただけます。  
お気軽にどうぞ!

### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)



HomePage



facebook



twitter



## 「後退」は「前進」になり得るか？ サラ レサド\*

日本と同様に、カナダは現在パンデミックのため封鎖されています。学校は9月まで閉鎖が続く予定で、ほとんどのオフィスワーカーは在宅勤務に適應しています。

家で過ごす時間がより長くなるにつれ、私の友人達の間で退屈な雰囲気が蔓延し、ソーシャルメディアのいたるところで古いトレンドが復活しているのを目にするようになりました。人々は工作、縫い物、パンやお菓子づくり、チーズ作りを始めました。最初は暇つぶしだったのが、まもなくそれがどれほど有用であるかを発見しました。自分達のマスクを縫い、基本的な素材を使って健康的な食事を作り、自分達で野菜を育てることは、停滞するサプライチェーンと減少した資金への不安に対抗する手段となりました。

現在、カナダの状況はそれほど悪くありません。サプライチェーンは機能しており、すべての人に行き渡るだけの食料と生活必需品を確保するため、多くの人々が一生懸命働いています。それでも、人々は今や企業への依存を減らし、コミュニティのために持続可能な供給を行うシステムをつくりあげていくことを強く望んでいます。

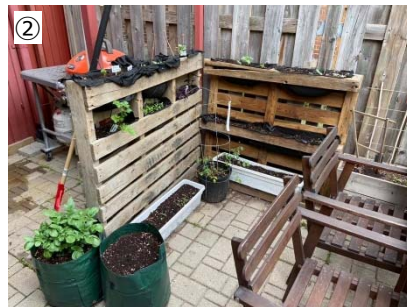
ほんの数ヶ月のうちに、私は持続可能な実践の波が社会の主流に入り込むのを見てきました。そして既に、変化が実を結びつつあります。

- 都市の大気の質が大幅に改善したと、多くの人々が私に報告してきました。
- 失業と貧困に見舞われたコミュニティが集まり、お互いのための食料を提供するため大きな菜園を作りました。

このことは、コミュニティ全体がより実践的な、人間同士の関係に土台を置いた生活様式に戻ったことを示しています。人々は友人と共有したり、自分で食べ物を育てたり、愛する人と家で本当の時間を過ごしたりすることの価値を再発見しました。「サバイバル（生き延び

ること）」のためにお金を稼ぐ、という絶え間ない競争によって通常は制限されてきた物事のすべては、今まさに花を咲かせる場所を与えられ、真の人間の可能性を私達に見せてくれています。

現在の経済システムは、人々よりも企業を優遇することを目的としてずっと前に構築されました。一旦そのシステムから解放されれば、人々が活躍することが今はわかります！古い方法が、人間の可能性が輝ける新しいシステムを見つける妨げにならないようにしましょう。人間の心の真の力を使いましょう。（原文英語、日本語訳：山本裕子）



①都市部で飼育されるヒヨコ

コロナによる貧困を軽減させるため、法律が改正されて都市部で食べ物となる動植物を育てることができるようになった。

②廃材を利用した鉛直ガーデン

コロナで人が集まれないため、失業者を含む近所の人達が作業を分担して制作した。

③紙で作ったカナダのメープルリーフ  
友人が失業後に新たに習って作った。

\*Sarah Lessard

カナダ出身。2017年より宇部市在住。英語教師。持続可能な都市農業、持続可能な生活についても教えている。

英語原文はうべっくるブログに掲載します。http://ubekuru.com/blog\_view.php?code=1

## うべ環境コミュニティ会員 ほっと コラム

## 『水の値段』

2019年、私は妻とともにインドネシア・スマトラ島プカンバル市で約5か月間生活しました。プカンバルはいわゆる百万都市ですが市街地から離れた住宅地には上水道は敷設されておらず、住民は地下水をくみ上げて生活しています。

生活用水用の地下水は約10m程度の深度の浅井戸で、屋根の上のオレンジ色のタンクに一旦くみ上げてから住宅内に給水します。浅井戸ですので微生物による汚染が懸念されますし、泥炭地という特殊な地質のためpHは3~4と酸性の水です。食器を洗っても完全に清潔になったとは言えません。シャワーももちろんその酸っぱい地下水を浴びます。温水ヒーターはないので、27℃から30℃ぐらいの温度です。温水プールよりも冷たい程度なので浴びて20秒くらい経てば慣れますが、最初の5秒はドキドキです。また、酸性の水は金属を腐食するので、塩ビパイプの粗末な配管です。

地下水は衛生的に不安ですので料理、飲み水や食品・食器のすすぎには市販の19リットル入りのガロン水（128円）を使用しました。1リットル当たり6.7円です。

使用量は1人当たり毎日2.4リットル程度であり、2人で毎月1000円程度ガロン水を購入しました。日本と比較してみると、例えば宇部市の上水道の基本料金ベースで考えると1リットル当たり0.13円程度です。

水道水はインドネシアのガロン水の50分の1、ペットボトル水と比べると150分の1の値段ですね。「清浄にして豊富・低廉」と水道法にうたわれているとおり、日本では豊富な水を安く手に入っていますが、それはこれまで我々市民が水道料金の形で日本の水道施設を支えてきたからです。宇部市の水道は1926年に沖ノ山水道譲りを受けてからもうすぐ100年が経過します。老朽化した管路や施設の更新も課題です。我々市民が安全な水道水をこれからも享受するためには、我々が引き継いできた巨大な水道資産の更新に対して相応の費用を負担していく覚悟が求められているのではないのでしょうか。

山口大学工学部 山本 浩一



ガロン水のストックと使用時の状態

**寄付金報告** 株式会社宇部セントラルコンサルタント様からNPO法人うべ環境コミュニティの環境保全および環境教育活動に対し10万円のご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。